

献 辞

専修大学創立140周年にあたる2020（令和2）年4月、商学部は発祥の地・神田神保町に無事移転し、新たな一歩を踏みはじめました。しかし、その矢先にいわゆるコロナ禍に襲われ、新校舎である神田10号館をはじめとする神田キャンパスでの授業は、後期こそ一部対面で実施できましたが、ほとんどがオンラインで実施せざるを得ませんでした。教授会をはじめとする諸会議もオンライン開催がほとんどになり、教員同士で顔を合わす機会もめっきり減ってしまいました。このように本来であれば、この一年は、商学部にとって晴れがましい年になるはずでしたが、ウィズ・コロナからポスト・コロナを見据えた新しい教育・研究のあり方を探る厳しい年となりました。

商学部は、ここに至るまで、2015（平成27）年度には、1905（明治38）年の現神田校舎の地での商科の創設から数えて商学教育110年、1965（昭和40）年の学部設置から数えて50周年を、2018（平成30）年度には、会計教育100周年、会計学科50周年の節目を刻んできました。こうした商学部にとって大切な時期とともに歩むとともに、この一年間、前代未聞の取り組みに挑んでくださった、上田和勇教授、高原隆明教授が2020年度をもって本学を定年退職されることとなりました。

上田和勇教授は、1974（昭和49）年3月早稲田大学商学部を卒業後、安田火災海上保険株式会社に入社、1976（昭和51）年同社退社を経て、1979（昭和54）年3月早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了、1982（昭和57）年3月早稲田大学大学院商学研究科博士課程を修了されました。同年4月専修大学商学部助手として入職し1984（昭和59）年講師、1987（昭和62）年助教授に昇格されたのを経て、1993（平成5）年4月教授に昇格されました。1995（平成7）年9月には商学博士（早稲田大学）を授与されています。学内での主要な役職としては、国際交流センター委員会運営委員、同委員会委員、商学研究所長、自己点検・評価委員会委員、大学院商学研究科長、社会知性開発研究センター研究員、キャンパス・ハラスメント対策室長、体育部長などを務められました。主要な担当科目としては、リスクマネジメント、企業倫理、生命保険と社会保険などがあげられます。ご研究の専攻分野はリスクマネジメントで、多数の著書・論文を公表されるとともに、日本リスクマネジメント学会賞を受賞されるなど学会からも高く評価されています。

私事ながら、上田先生は商学部、大学院商学研究科、商学研究所をリードされるお立場から、ときには優しく、ときには厳しくご指導いただきました。あらためてこの場を借りて感謝申し上げます。

高原隆明教授は、1980（昭和55）年3月筑波大学生物科学研究科博士課程を修了（理学博士）された後、1981（昭和56）年4月専修大学商学部講師として入職され、1984（昭和59）年助教授に昇格されたのを経て、1995（平成7）年教授に昇格されました。学内での主要な役職としては、教養課程委員会委員、図書館委員会委員、二部学生部次長、学生部次長などを務められました。主要な担当科目としては、あなたと自然科学、生物科学101、生物科学102などがあげられます。ご研究面では、日本植物学会、日本藻類学会に所属され、多数の論文を公表されています。

私事ながら、高原先生はたいへん温厚かつ紳士的なお人柄で、いつも優しい笑顔で接してくださったこと

が印象的でした。学務面では学生厚生畑のお役職に長くつかれており、学生の相談に親身になって乗る一方で、厳しく指導しなければならない局面には正面から学生と向き合っておられ、多くを学ばせていただきました。

上田先生、高原先生ともに40年近く専修大学にお勤めになられ、いよいよ定年退職を迎えられるわけですが、その最後の年がコロナ禍によって、対面で授業や会議がほとんどできず、学生、同僚とのコミュニケーションに大きな制約がもたらされたことは残念でなりません。また、本来であれば、盛大に送別会を開催すべきところですが、いわゆる「3つの密」を避けなければならないことから、それも叶いません。とはいえ、商学部神田移転という区切りの年に、未曾有の状況をともに乗り越えてきた記憶は学部構成員の心の中に深く刻まれています。ぜひ、この先のニューノーマルといわれる時代の中で、商学部が神田の地でどのような新たな姿を築いていくのかを見守っていただき、ときには叱咤激励してくださることをお願い申し上げます。

2021年1月吉日

商学部長 渡辺 達朗